

第1章 委託業務実施状況

1.1. 低炭素地域づくりに関する市民・事業者アンケート調査

1.1.1. 市民アンケート

(1) 調査の概要

①調査日時

平成22年8月18日～8月31日

②アンケート送付数・サンプル数

- ・送付数 1,500
- ・回収数 701 (回収率 46.7%)
うち有効回答数 701 (無効 0)

③調査方法

郵送配布、郵送回収

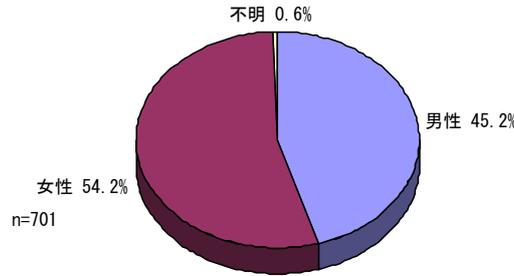
*本報告書中の記号について

- ・(MA)と表記のある設問は、複数回答(Multi Answer)による結果をあらわす。
- ・nは回答者数(number)をあらわす。
- ・アンケート結果の数値は小数点第2位を四捨五入しており、合計が100%にならない場合がある。

(2) 調査結果

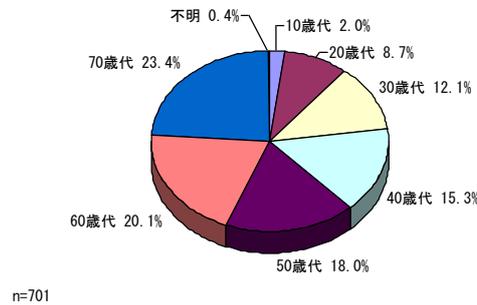
1) 性別

回答者の性別は、「男性」が45.2%、「女性」が54.2%となっている。



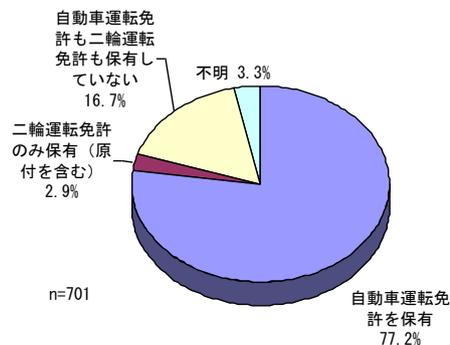
2) 年齢

回答者の年齢は、「70歳代」が23.4%と最も多く、次いで「60歳代」が20.1%、「50歳代」が18.0%、「40歳代」が15.3%、「30歳代」が12.1%の順となっている。



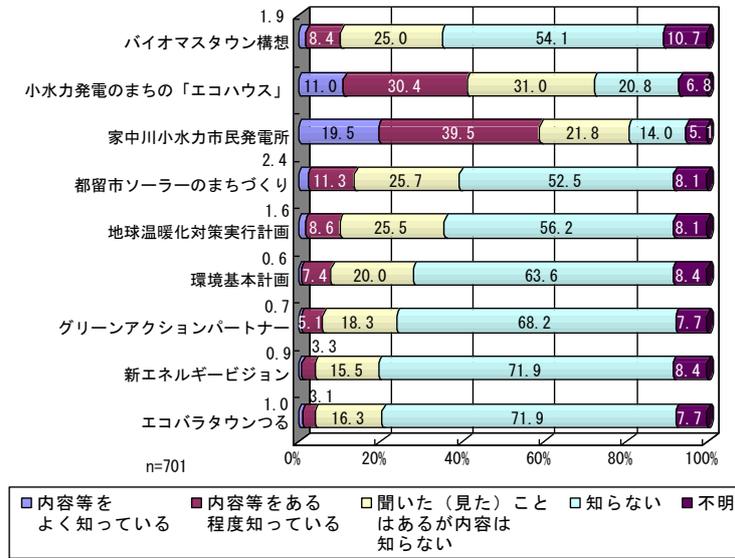
3) 保有する運転免許

回答者の運転免許保有状況は、「自動車運転免許を保有」が77.2%、「自動車運転免許も二輪運転免許も保有していない」が16.7%などとなっている。



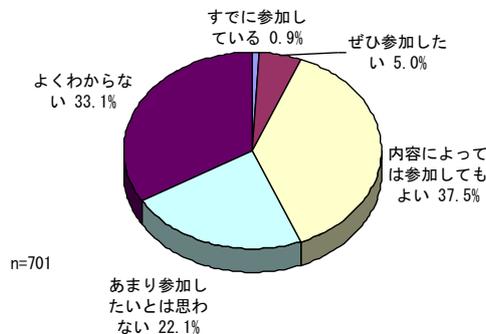
4) 実施事業の認知度

市の計画や事業に対する認知度については、「家中川小水力市民発電所」が最も高く、「内容等を良く知っている」、「内容等がある程度知っている」を合わせると59.0%になる。次いで、「小水力発電のまち「エコハウス」(41.4%)、「都留市ソーラーのまちづくり」(13.7%)などとなっている。



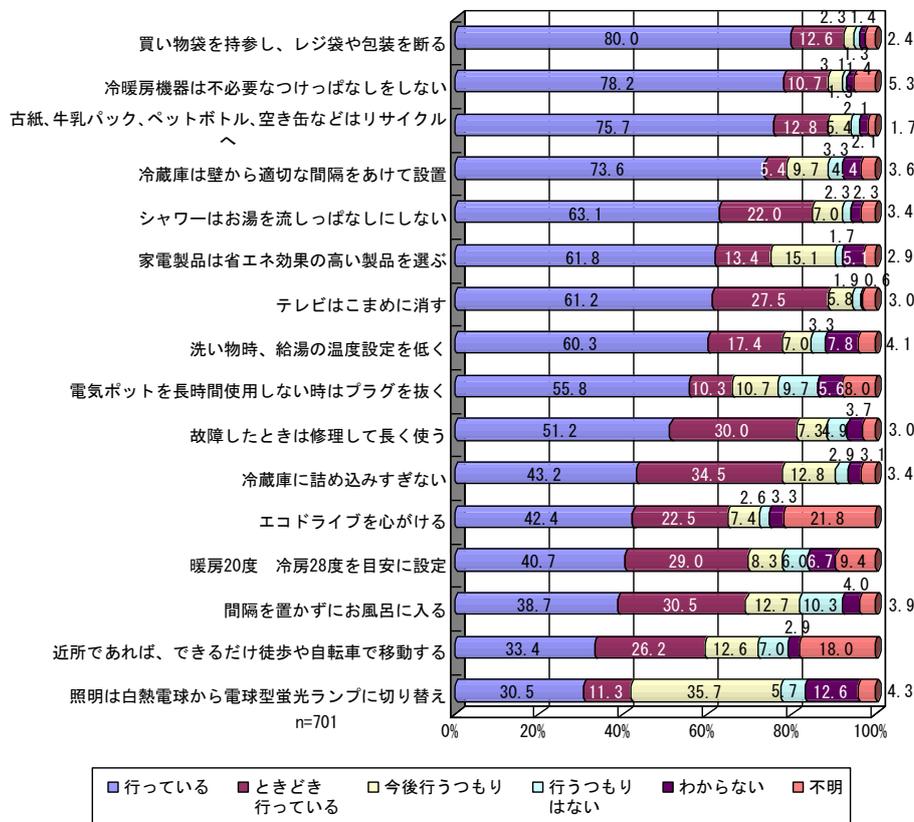
5) つるエコ帳への参加意向

インターネット上の環境家計簿「つるエコ帳」への参加意向については、「内容によっては参加してもよい」が37.5%で最も多くなったものの、続いて「よくわからない」が33.1%、「あまり参加したいとは思わない」が22.1%となり、「ぜひ参加したい」、「すでに参加している」はそれぞれ、5.0%、0.9%に留まった。



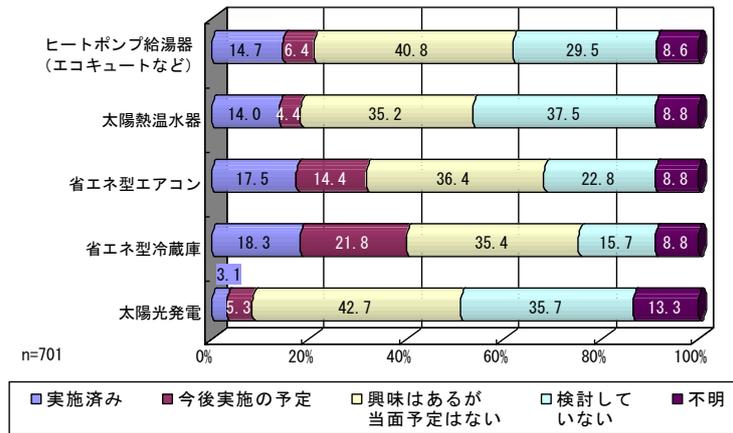
6) 日常生活での取り組み

日頃の生活の中で取り組んでいる環境配慮活動としては、「買い物袋を持参し、レジ袋や包装を断る」が最も多く、「行っている」、「ときどき行っている」を合わせると、92.6%にのぼった。次いで、「冷暖房機器は不必要なつけっぱなしをしないよう気をつけている」(88.9%)、「古紙、牛乳パック、ペットボトル、空き缶などはリサイクルへ回す」(88.5%)などとなっている。



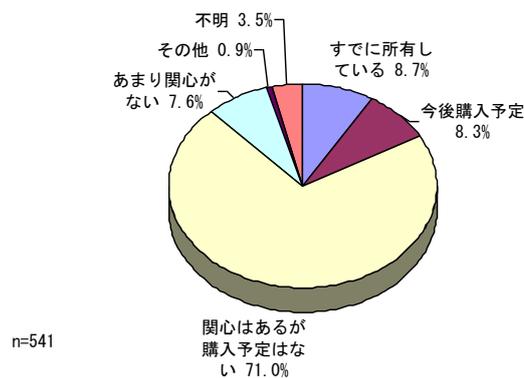
7) 設備・機器の家庭への導入状況

省エネルギー機器等の導入状況については、「省エネ型冷蔵庫」(18.3%)、「省エネ型エアコン」(17.5%)、「ヒートポンプ給湯器」(14.7%)などの順で「実施済み」との回答が多くなった。「省エネ型冷蔵庫」と「省エネ型エアコン」については、「今後実施の予定」とした回答者の割合も、それぞれ21.8%、14.4%と他の機器に比較して高くなった。



8) エコカーに関する意向

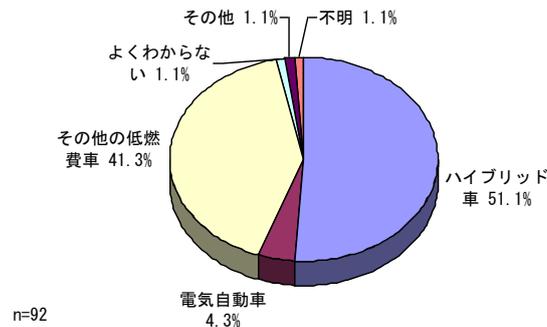
エコカーに関する意向としては、「関心はあるが購入予定はない」との回答が多くを占めた(71.0%)。「すでに所有している」、「今後購入予定」はそれぞれ8.7%、8.3%となった。



平成22年度 低炭素地域づくり面的対策推進事業報告書 抜粋1
 低炭素地域づくりに関する市民・事業者アンケート調査

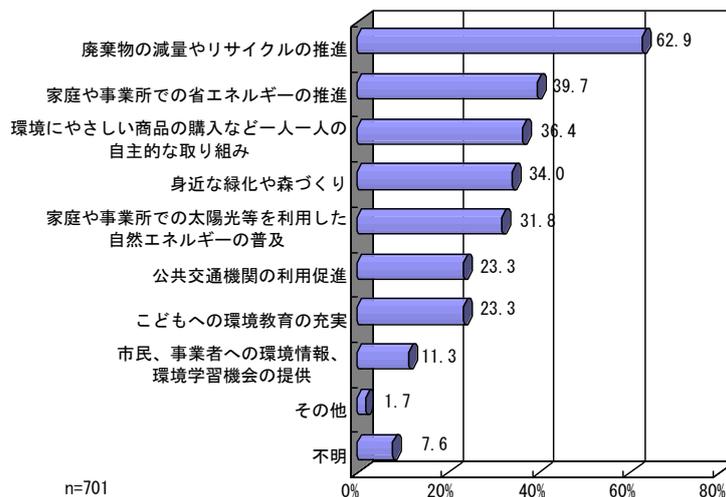
9) 車種

8)でエコカーを「所有している」または「今後購入予定」とした回答者にその車種を聞いたところ、「ハイブリッド車」が最も多く51.1%、次いで「その他の低燃費車」が41.3%となった。



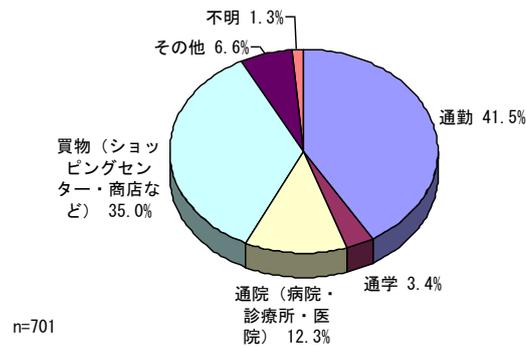
10) 温暖化を防止し、環境への負荷の少ない社会のために必要な取り組み(MA)

温暖化を防止し、環境への負荷の少ない社会のために必要な取り組みとしては、「廃棄物の減量やリサイクルの推進」が最も多く、62.9%の回答者が選択した。次いで「家庭や事業所での省エネルギーの推進」(39.7%)、「環境にやさしい商品の購入など一人一人の自主的な取り組み」(36.4%)などとなっている。



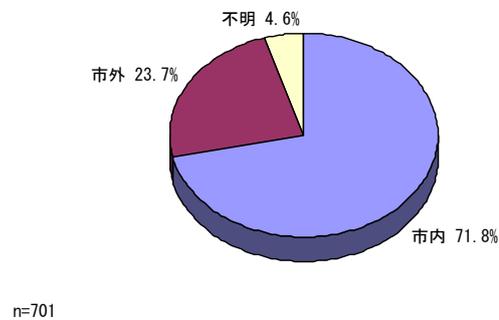
11) 外出の目的

回答者が普段、最も多く外出する目的は、「通勤」が41.5%と最も多く、次いで「買物（ショッピングセンター・商店など）」が35.0%、「通院（病院・診療所・医院）」が12.3%となっている。



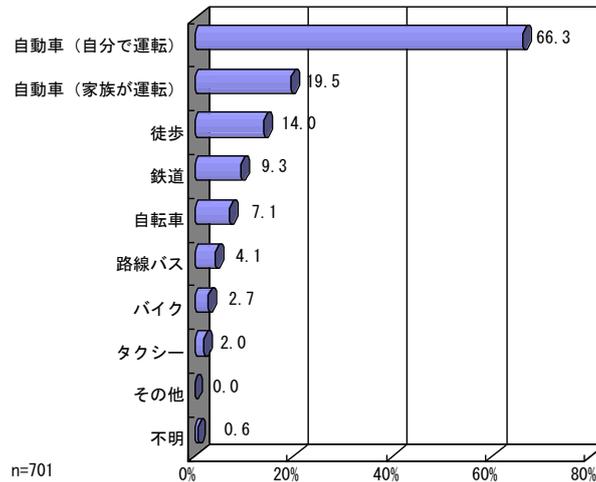
12) 外出先

11)で回答した目的で出かける外出先は、「市内」が71.8%、「市外」が23.7%となっている。



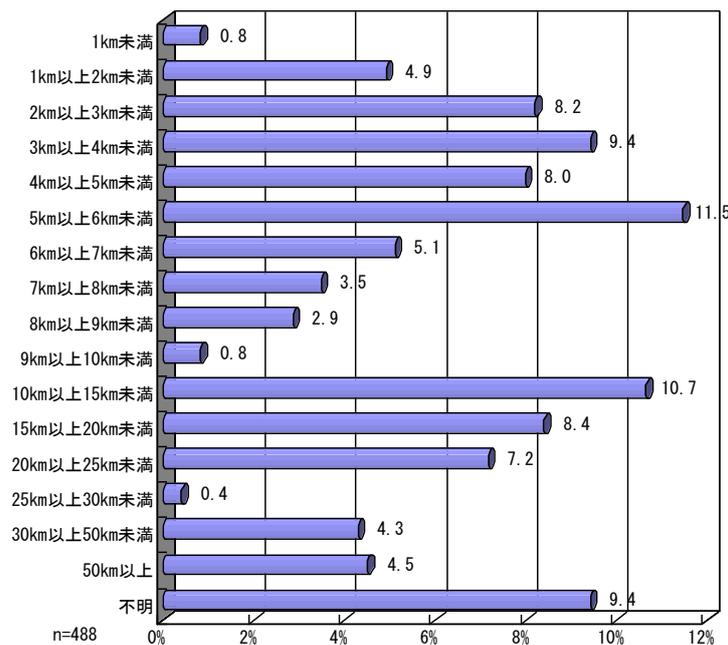
1.3) 利用することが多い交通手段 (MA)

11)、12)で回答した目的地(場所)へ行く時に、回答者が利用することが多い交通手段としては、「自動車(自分で運転)」が66.3%と最も多く、次いで「自動車(家族が運転)」が19.5%、「徒歩」が14.0%となっている。



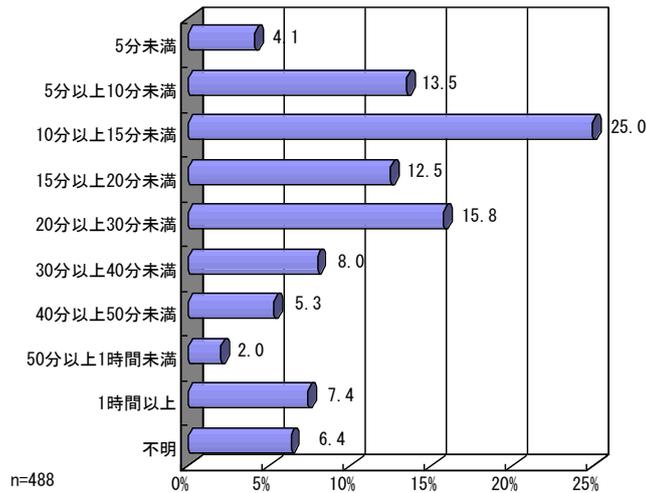
1.4) 車での移動距離 (km)

13)で利用する交通手段を「自動車(自分で運転・家族が運転)」と回答した人の、車での移動距離は、「5km以上6km未満」が11.5%と最も多く、次いで「10km以上15km未満」が10.7%、「3km以上4km未満」が9.4%となっている。



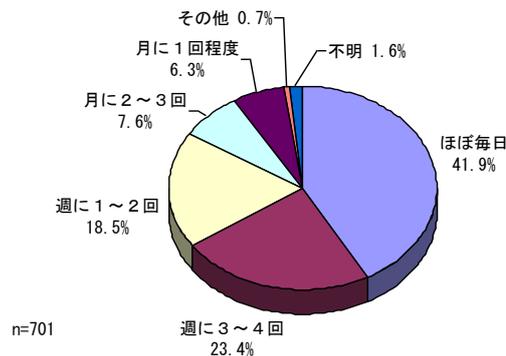
15) 車での所要時間 (分)

13)で利用する交通手段を「自動車(自分で運転・家族が運転)」と回答した人の、車での所要時間は、「10分以上15分未満」が25.0%と最も多く、次いで「20分以上30分未満」が15.8%、「5分以上10分未満」が13.5%となっている。



16) 目的地へ行く回数

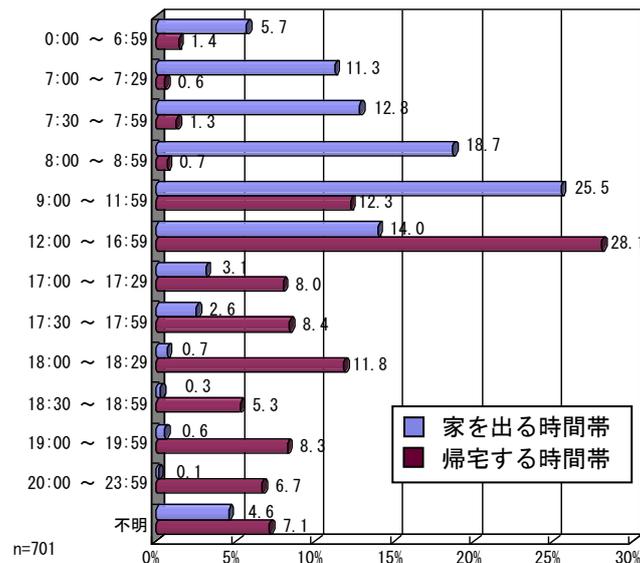
回答者が11)、12)で回答した目的地へ行く回数は、「ほぼ毎日」が41.9%と最も多く、次いで「週に3~4回」が23.4%、「週に1~2回」が18.5%となっている。



17) 家を出る時間帯と帰宅する時間帯

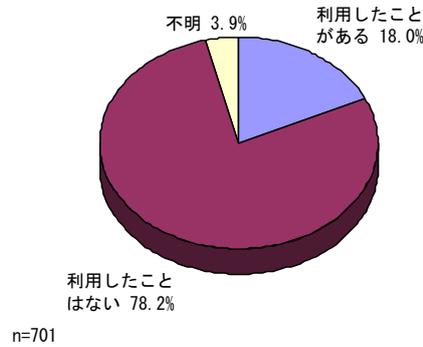
回答者が11)、12)で回答した目的地へ外出する時に家を出る時間帯は、「9:00～11:59」が25.5%と最も多く、次いで「8:00～8:59」が18.7%、「12:00～16:59」が14.0%となっている。

一方、帰宅時間帯は、「12:00～16:59」が28.1%と最も多く、次いで「9:00～11:59」が12.3%、「18:00～18:29」が11.8%となっている。



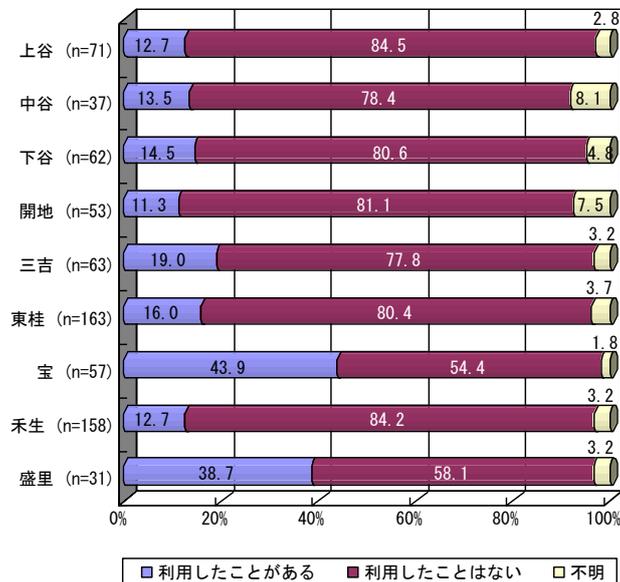
18) 都留市内の路線バスを利用したことがあるか

回答者の都留市内の路線バス利用状況は、「利用したことがある」が18.0%に対し、「利用したことはない」が78.2%と大半を占めている。



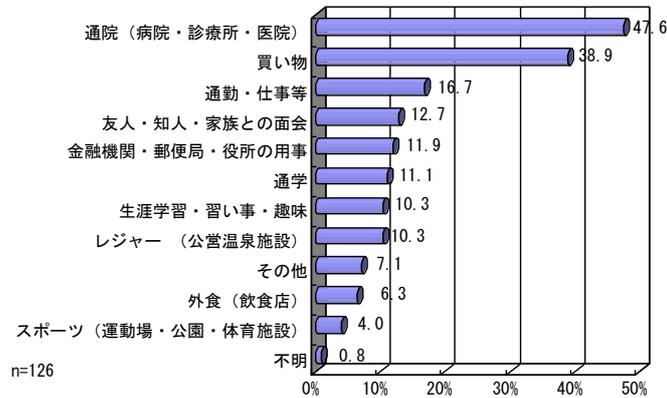
この結果を居住地域別に見ると、都留市内の路線バスを利用したことがあると回答した方は、「宝」が43.9%と最も多く、次いで「盛里」が38.7%、「三吉」が19.0%となっている。

F6: 居住地域 × Q15: 都留市内の路線バスを利用したことがあるか



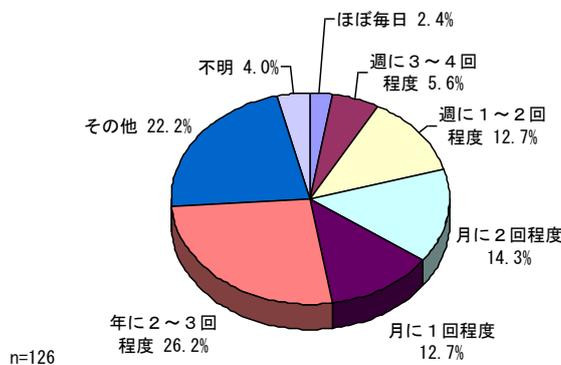
19) 路線バスの利用目的 (MA)

18)で「利用したことがある」と回答した人の利用目的は、「通院 (病院・診療所・医院)」が 47.6%と最も多く、次いで「買い物」が 38.9%、「通勤・仕事等」が 16.7%となっている。



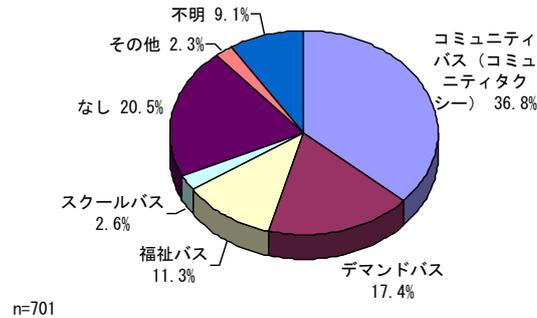
20) 路線バスの利用頻度

18)で「利用したことがある」と回答した人の利用頻度は、「年に2～3回」が 26.2%と最も多く、次いで「その他」が 22.2%、「月に2回程度」が 14.3%となっている。



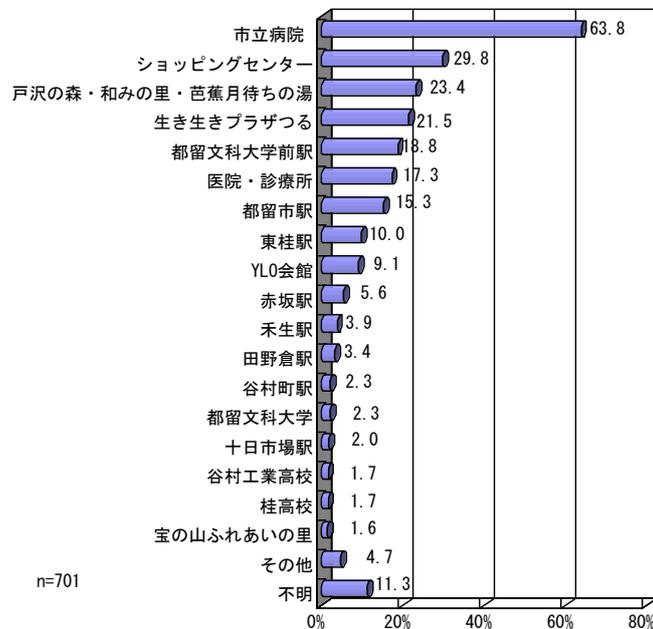
21) 充実してほしい公共交通サービス

回答者が充実して欲しいと考える公共交通サービスは、「コミュニティバス（コミュニティタクシー）」が36.8%と最も多く、次いで「デマンドバス」が17.4%となっている。



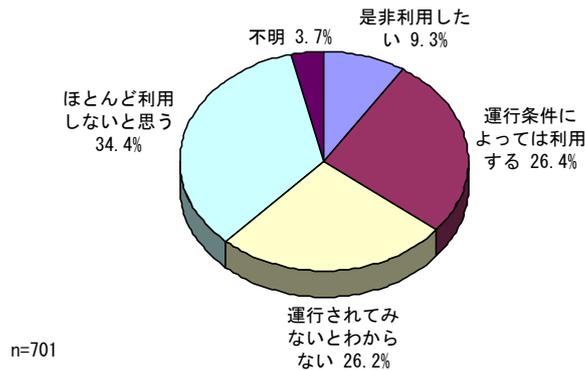
22) コミュニティバス等の立ち寄り希望施設（MA）

回答者がコミュニティバス等の立ち寄りを希望する施設は、「市立病院」が63.8%と最も多く、次いで「ショッピングセンター」が29.8%、「戸沢の森・和みの里・芭蕉月待ちの湯」が23.4%、「いきいきプラザ都留」が21.5%の順となっている。



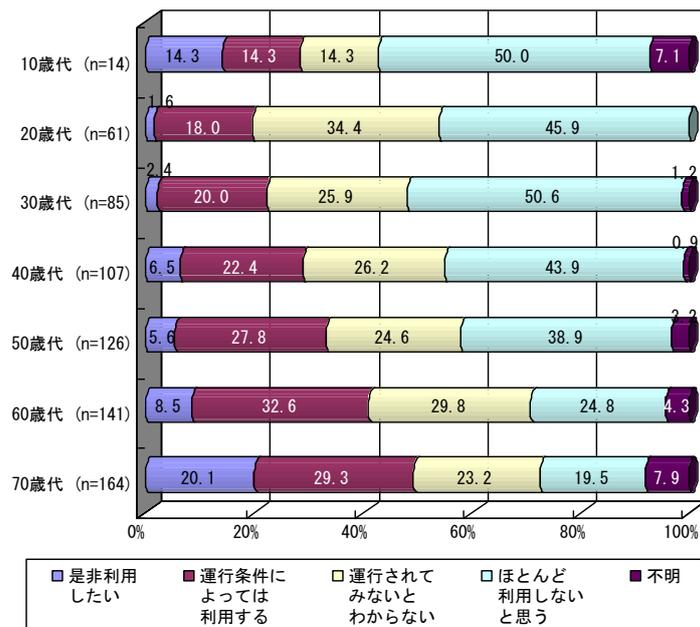
23) 前問の場所に立寄るコミュニティバス等を利用するか

22)で回答した場所に立ち寄るコミュニティバスが導入された場合利用するかと言う設問に対し、「ほとんど利用しないと思う」という回答が34.4%と最も多く寄せられた。一方、「是非利用したい」との回答は9.3%にとどまっているが、「運行条件によっては利用する」との回答が26.4%あった。



この結果を年齢別に見ると、利用可能性（「是非利用したい」＋「運行条件によっては利用する」）は、「70歳代」が49.4%と最も高く、次いで「60歳代」が41.1%、「50歳代」が33.4%となり、年齢階層が上がるにつれて高くなっている。

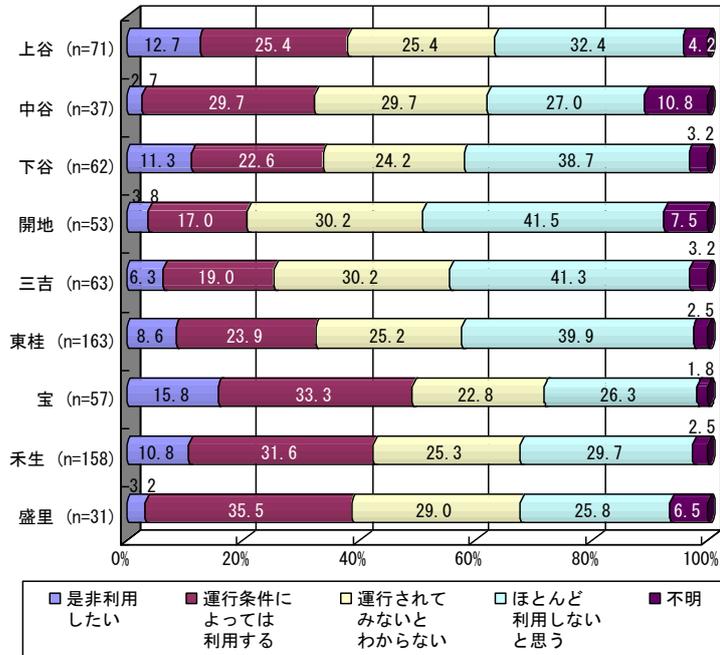
F2：年齢 × Q20：Q19の場所に立寄るコミュニティバス等を利用するか



平成22年度 低炭素地域づくり面的対策推進事業報告書 抜粋1
 低炭素地域づくりに関する市民・事業者アンケート調査

居住地域別に見ると、利用可能性（「是非利用したい」＋「運行条件によっては利用する」）は、「宝」が49.1%と最も高く、次いで「禾生」が42.4%、「盛里」が38.7%、「上谷」が38.1%となっている。

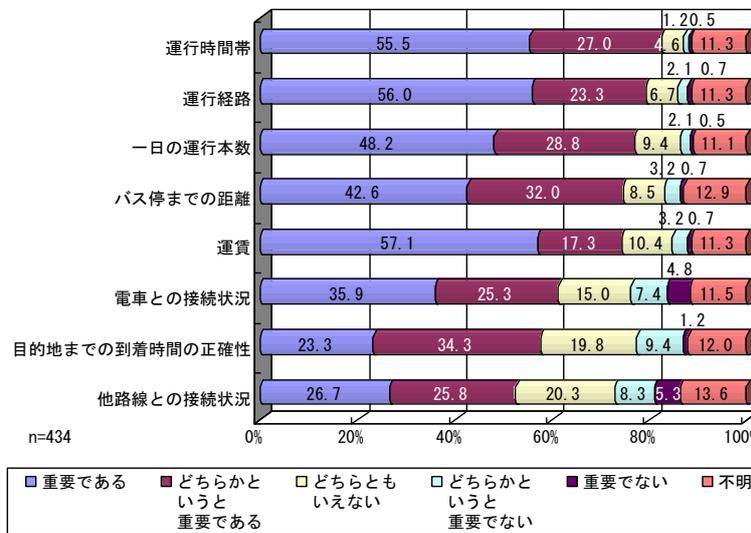
F6：居住地域 × Q20：Q19の場所に立寄るコミュニティバス等を利用するか



24) コミュニティバス等が運行する場合の運行条件

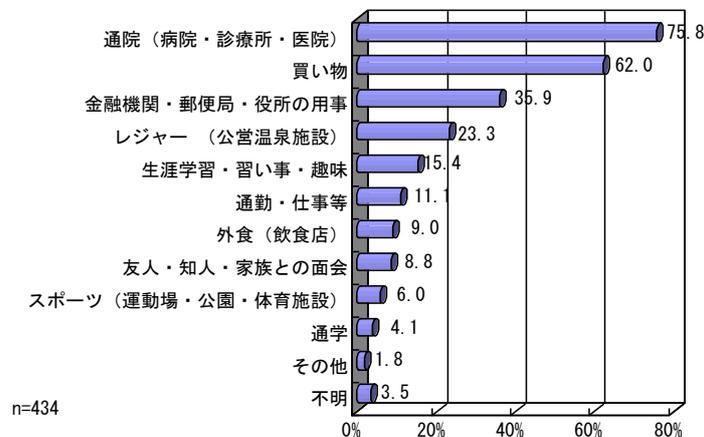
コミュニティバス等が運行する場合の運行条件について尋ねたところ、重要度の高い項目（「重要である」＋「どちらかという重要である」）として、①「運行時間帯」が82.5%、②「運行経路」が79.3%、③「一日の運行本数」が77.0%となっている。

一方、重要度が低い項目（「重要でない」＋「どちらかという重要でない」）としては、①「他路線との接続状況」が13.6%、②「電車との接続状況」が12.2%、③「目的地までの到着時間の正確性」が10.6%となっている。



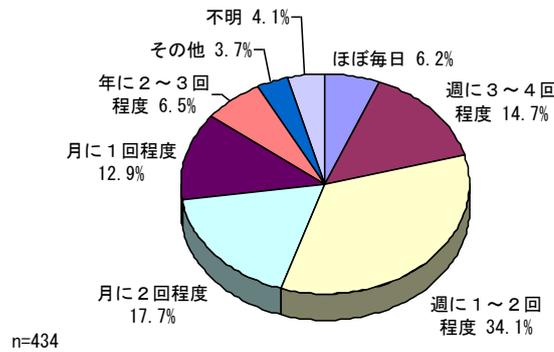
25) コミュニティバス等の利用目的

コミュニティバス等が運行された場合に利用する可能性がある人の利用目的は、「通院（病院・診療所・医院）」が最も多く、75.8%、次いで「買い物」が62.0%、「金融機関・郵便局・役所の用事」が35.9%となっている。



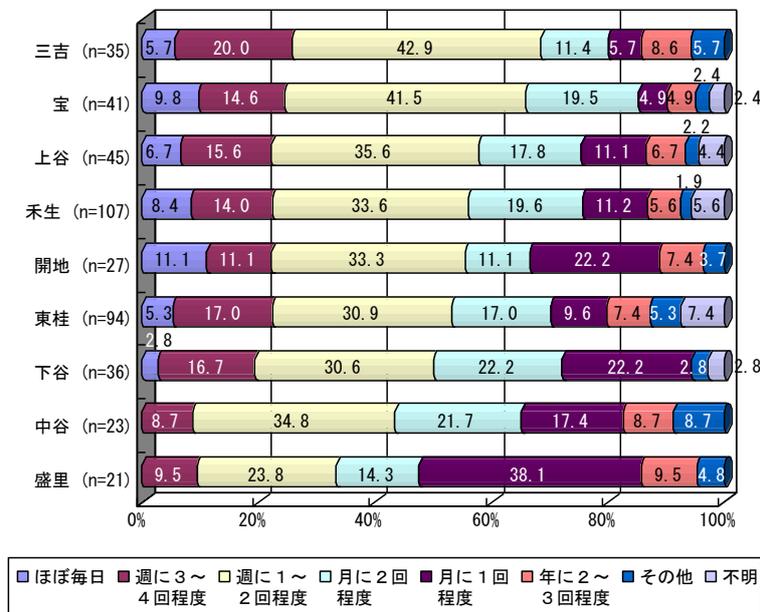
26) コミュニティバス等をどの程度利用するか

コミュニティバス等が運行された場合の利用頻度は、「週に1～2回程度」が最も多く34.1%、次いで「月に2回程度」が17.7%、「週に3～4回程度」が14.7%となっている。



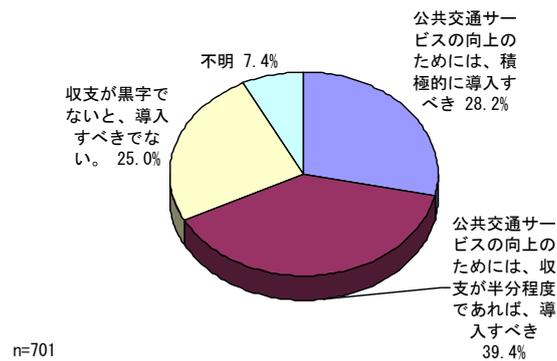
この結果を居住地域別に見ると、コミュニティバス等が運行された場合の潜在的需用（「ほぼ毎日」＋「週に3～4回程度」＋「週に1～2回程度」）は、「三吉」が68.6%と最も多く、次いで「宝」が65.9%、「上谷」が57.9%、「禾生」が56.0%、「開地」が55.5%となっている。

F6：居住地域 × Q23：コミュニティバス等の利用頻度



27) 収支について

どの程度の収支であれば、コミュニティバス等を導入してよいと思うか尋ねたところ、「公共交通サービスの向上のためには、収支が半分程度であれば、導入すべき」が最も多く39.4%となっている。「公共交通サービスの向上のためには、積極的に導入すべき」(28.2%)とあわせると、67.6%の人がコミュニティバス等について導入すべきと考えており、その必要性が感じられる。



28) 交通部門の二酸化炭素排出量削減のために必要なこと

交通部門の二酸化炭素排出量削減のために今後必要な取り組みとして、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」をあわせた割合は、「バス・鉄道などの公共交通機関を充実し、公共交通機関の利用を推進する」が最も多く69.4%、次いで「エコカー減税などによりエコカーへの転換を支援する」が68.7%となっている。

一方、「そうは思わない」「どちらかといえばそう思わない」をあわせた割合は、「自転車道の整備などにより、自転車利用を推進する」が26.0%と最も高く、次いで「カーシェアリングなどを推進し、余分な自動車移動を削減する」が21.3%となっている。

